

テーマ

アクチン細胞骨格からがん細胞の性質を理解する

適用分野

がん進行の分子メカニズムの解明、抗がん剤の新規標的分子の提示



研究名称

p53によるアクチン細胞骨格の制御

氏名所属

川内敬子 准教授
フロンティアサイエンス学部 生命化学科

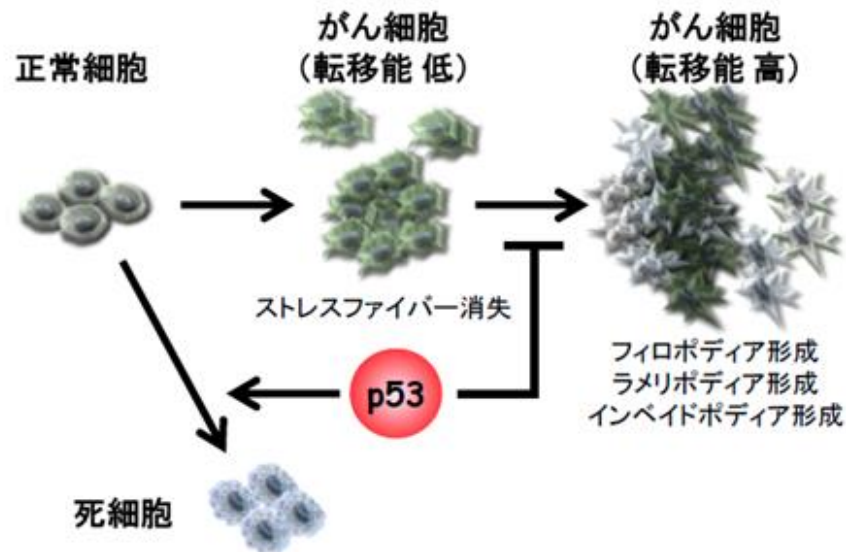
内容

●特徴

細胞の形態は、細胞内に最も豊富に存在しているアクチンから構成される細胞骨格の構造に依存しており、運動能や転移能などの細胞の性質に深く関連している。がん進行の過程で、細胞の形態は大きく変化するが、その分子機構は不明な点が多く残されている。

●研究内容

がん進行の過程で、がん抑制遺伝子p53の不活性化されることが知られている。そこで、がんの悪性化にはp53の不活性化によるアクチン細胞骨格構造の変化が重要であると考え、分子機構の解明を行っている。



キーワード

p53、アクチン、がん、転移

連携方法

■ 講演 ■ 研修 ■ 研究相談 ■ 学術調査 ■ コメント ■ 共同研究